



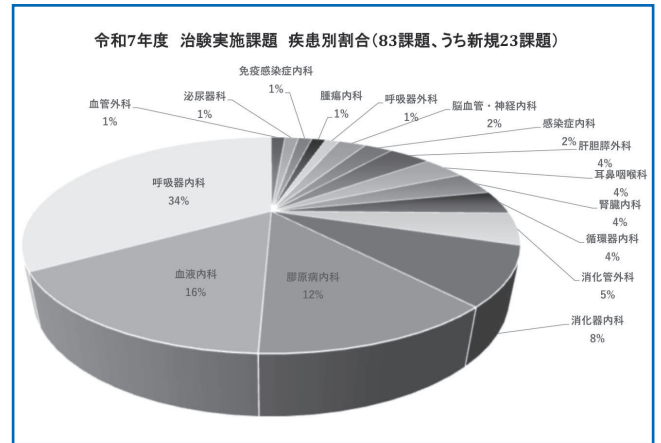
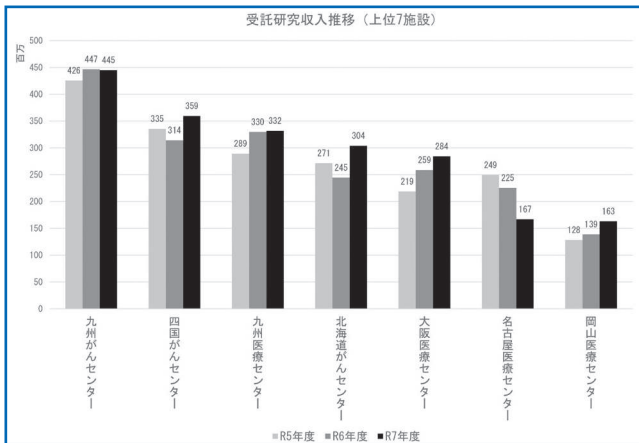
お知らせ

Kyushu Medical Center

今回は当院の治験実績を報告します。当院は治験にも力を入れており、治験を含む受託研究の収入は年々増加し、国立病院機構内のランキングで、令和6年度に2位になりました。直近の令和7年度は、当院の収入増が僅かで3位に後退しましたが、治験が集まりやすい各地のがんセンターに伍して総合病院として唯一4位以内に入っているのは特筆できることだと思います。特に呼吸器内科・血液内科・膠原病内科が多くの治験を受託していますが、消化器内科・外科

など、多くの診療科が精力的に受託し、総額で年間約3.3億円の収入を得ています。令和7年度は新規23課題を含む総数83課題の治験を実施しました。令和7年度の収入が伸びなかったのは、治験費用の算定法を国際基準に合致したタスクベース型に移行してきたことが理由の一つですが、これによって今後国際治験が増加することを期待しているところです。

臨床研究センター長 甲斐 哲也



海外学会報告

Kyushu Medical Center

European Congress of Radiology 2026 について

放射線部

宮寄 義章

2026年3月4日から8日にかけて、オーストリア・ウィーンで開催されたECR 2026 (European Congress of Radiology 2026) において、乳房 dynamic contrast-enhanced MRI に関する研究を oral presentation として発表しました。演題は「Fully Automated Diagnostic Support Program for Breast Dynamic MRI (Tumor Extraction → Benign/Malignant Differentiation → Invasive/Non-Invasive)」です。

ECR は、ヨーロッパ最大級の放射線医学関連学会の一つであり、多職種が集う国際性の高い学会です。会場では各分野の最新の研究成果が数多く発表され、活発な議論が行われており、放射線医学の広がりや学術的な熱気を強く感じました。

本研究では、time-intensity curve (TIC) に基づく全自動解析手法「TIC-CAD」を開発し、その精度検証を行いました。

乳房 MRI では、同一病変内に washout、plateau、persistent といった異なる造影パターンが混在し、ROI の置き方によって診断結果が変わり得ることが課題です。そこで、病変内の各 pixel の造影動態を自動解析し、悪性度をより反映すると考えられる領域を抽出することで、ROI 設定に依存しない再現性のある評価を目指しました。さらに、浸潤癌と非浸潤癌の識別可能性や病理所見との対応も示すことができました。



今回で3回目となる ECR での発表では、これまでの経験を踏まえて落ち着いて臨むことができました。一方で、準備の段階では、限られた時間の中で内容を整理し、要点を明確に伝える難しさを改めて感じました。発表後は、内容に関心を寄せてくださった方々と意見交換する機会もあり、大変有意義な経験となりました。3回目を終えた今なお、英語での伝え方や研究内容の示し方など、改善すべき点があることを実感しており、今後さらに研鑽を重ねていきたいと考えています。

今回、九州医療センターのご支援のもと ECR に参加し、発表する機会をいただけたことに心より感謝しております。また、不在の間も業務を支え、快く送り出してくださいましたスタッフの皆様にも深く御礼申し上げます。今回得られた経験を、今後の診療、研究、教育に還元していきたいと考えています。



TOPICS

Kyushu Medical Center

臨床研究推進部長就任挨拶

整形外科・リウマチ科

福士 純一

令和8年4月1日に臨床研究推進部長に就任いたしました。整形外科・リウマチ科の福士です。臨床研究センター副センター長も合わせて拝命しました。当院の臨床研究に対して、少しでも貢献できるように努めたいと思います。

私の研究歴を簡単に紹介させていただきます。私は平成7年に医学部を卒業し、平成9年より大学院に進学しました。血管新生の分子機序についての研究で学位を取得後、米国 San Diego にある the Burnham Institute でプロテオグリカンの研究を行いました。帰国後は大学病院にて、骨軟部腫瘍や関節リウマチなど血管新生が関わる病態についての基礎研究を行いながら、関節手術についての臨床研究にも携わってまいりました。令和元年に当院に赴任してからは、臨床の専門

である足部や股関節、リウマチ外科の手術成績を対象に、共著を含め英文論文 27 報（うち 11 報は当科スタッフが corresponding author）を発表してきました。研究予算の獲得も重要と考え、大学院卒のスタッフに対しては科研費への応募を積極的に勧め、8年間で 11 件の課題を採択していただきました（基盤 3 件、若手 8 件）。当院での研究活動に際しては、臨床研究センターを中心に多くの方々にサポートしていただき、大変に感謝しています。

当院の最大の強みの 1 つは、大学・医局との距離が近く、教官経験者やリサーチマインドが旺盛な若手の先生が多いことだと思います。講堂前の廊下には優秀演題賞の報告が毎月のように掲示され、診療と研究を両立されている先生がこんなにも多いのか、と驚かされます。熱意のある先生の研究活動に対して、研究費の獲得を含めたサポートがより身近となるよう、知恵を絞りたいと思います。なにとぞよろしく願いいたします。

令和 8（2026）年度科研費採択課題について

整形外科・リウマチ科

山手 智志

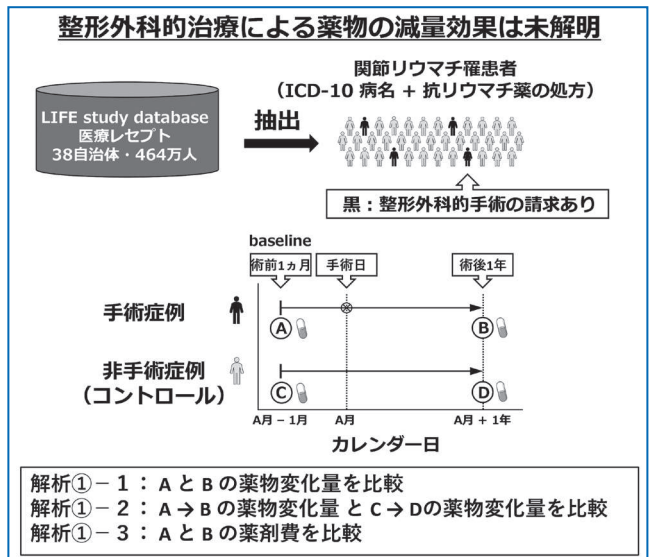
この度、科学研究費助成事業（科研費）若手研究に「関節リウマチにおける整形外科的手術前後の薬物治療変化：医療レセプト解析」という研究課題が採択されましたので、その概要をご紹介します。

関節リウマチに対する整形外科的手術は、患者の QOL 向上に寄与する有効な治療手段の一つであり、九州医療センターはそのような手術を数多く実施する国内有数の施設です。一方で、整形外科的手術が術後の関節リウマチ治療薬（抗リウマチ薬、ステロイド、NSAIDs など）の処方量や医療費に与える影響については、大規模データに基づくエビデンスは十分に蓄積されていません。

本研究では、2026 年 4 月時点で約 464 万人・38 自治体に参加する LIFE Study database の医療レセプトデータ（国民健康保険および後期高齢者医療制度）を用いて解析を行います。本データベースは九州大学が主導し、健康関連データを統合して解析することで、医療政策に資するエビデンスの創出を目的として構築された研究基盤です。本研究課題では、関節リウマチの病名を有し、抗リウマチ薬の処方がある住民を対象に、患者背景、併存疾患、薬物処方量および薬剤費の経時的変化を詳細に追跡し、整形外科的手術を受けた症例

と受けていない症例を比較します。さらに、手術を契機とした骨粗鬆症の評価や治療介入の変化についても解析し、整形外科的手術が有する予防医学的意義および医療経済的価値の解明を目指します。

科研費の獲得にあたり、整形外科・リウマチ科 科長の福士純一先生、臨床研究センター長の甲斐哲也先生、ならびに臨床研究センターの皆様より多大なるご指導とご支援を賜りました。この場を借りて深く御礼申し上げます。



降圧薬内服下高血圧患者における実測尿中 Na/K 比 ～午前中の随時尿対前日 24 時間家庭蓄尿の比較～

国立病院機構九州医療センター臨床検査科、腎臓・高血圧内科

荒川 仁香

【背景目的】

尿中 Na/K 比は高血圧や心血管病と関連するとの報告が多数あるが、それらは 24 時間蓄尿を用いており、健常者対象のものが主である。しかし、この値を高血圧の実臨床に活かすには、1 回の随時尿での評価が現実的で降圧薬内服下高血圧患者を対象とした検討も必要である。

【方法】

我々は午前中絶食下の随時尿と前日の 24 時間家庭蓄尿両方の Na や K などの濃度が測定された高血圧患者 187 名（平均年齢 66.1 歳、女性 52.4%）の保存データを用いて、両者の実測 Na/K 比（随時尿は mmol/L、蓄尿は mmol/日）を比較した。

【結果】

蓄尿中 Na/K 比（24NaK）は平均 3.54 ± 1.5 、随時尿中 Na/K 比（CNaK）は平均 2.63 ± 1.9 であった。両者は有意に正相関を示した（ $r=0.49$ 、 $p<0.0001$ 、図 1）。Bland-Altman plot では両者の差の平均は -0.91 で両者の平均値が高い程、差が大きくなっていった。また、全体の一致率は 46%（86/187 名）、過小評価（随時尿 < 蓄尿）46%（86/187 名）、過大評価（随時尿 > 蓄尿）8.0%（15/187 名）であった。CNaK を < 2（低域

46%）、2 以上 4 未満（中間域 37%）、4 以上（高域 17%）に分けて 24NaK との一致率をみると、低域では一致率 24.4%、過小評価 75.6%、中間域で一致率 60.8%、過小評価 30.5%、過大評価 8.7%、高域群で一致率 71.8%、過小評価 28.2% であった。

【結論】

午前中絶食下の CNa/K は前日の 24Na/K と有意に相関したが、全体で -0.91 程度低く、蓄尿に比し過少評価となる。特に CNa/K < 2 領域での過少評価が課題であり、この点を念頭においた換算式設定などの工夫が必要と考えられる。

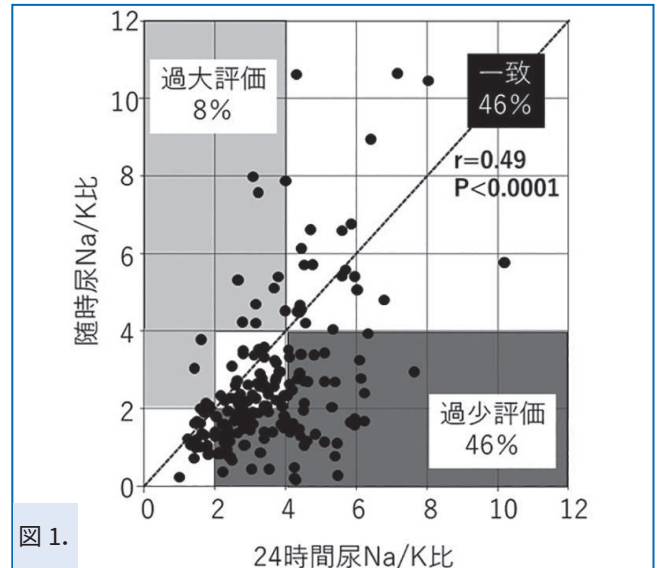


図 1.

令和8年度 研修医・専攻医 業績一覧

論	First Author	所属科	タイトル	雑誌名、書名	
	専攻医	古賀 雅子	小児科	アデノウイルス感染症の経過中に著明な胆嚢腫大を認め診断に苦慮した川崎病	日本小児科学会雑誌
文	専攻医	倉本 孝文	整形外科・リウマチ科	Risk factors affecting the vital prognosis in patients with rheumatoid arthritis after primary cervical spine surgery: a retrospective study	Arthritis Research & Therapy
	専攻医	清原 鴻平	眼科	A Novel Short Intraocular Endoscope with Extended Depth of Focus: Evaluation of The Observation Field during Vitrectomy	Retina
	研修医	日野 雅喜	循環器内科	非閉塞性冠動脈を背景とした心室中隔破裂：たこつば症候群と MINOCA の鑑別が困難であった一例	心臓
研修医	鐘江 愛	循環器内科	深部静脈血栓症と肺血栓症を契機に判明したアンチトロンピン欠乏症合併妊娠の 1 例	福岡産科婦人科学会雑誌	
研修医	西山 昌志	血管外科	精神疾患を有する腹部大動脈瘤症例の手術成績	血管外科	
表	表彰者名	所属科	表彰名	受賞内容（学会演題、論文タイトル、共同演者、共著）等	
	研修医	笹栗みのり	脳血管・神経内科	第 350 回日本内科学会九州地方会 初期研修医奨励賞 ラロキシフェン内服中に発症した脳静脈洞血栓症の 1 例	
研修医	佐保 香苗	呼吸器内科	第 96 回日本呼吸器学会九州支部春季学術講演会 一般演題 育成賞 間質性肺疾患における抗 Ro52 抗体の臨床的意義		
研修医	古賀悠美子	呼吸器内科	第 96 回日本呼吸器学会九州支部春季学術講演会 一般演題 育成賞 間質性肺疾患先行型の抗 Ku 抗体陽性原発性シェーグレン症候群の一例		
研修医	高野 桜子	循環器内科	第 138 回日本循環器学会九州地方会 研修医セッション GOLD MEDAL 若年発症の重症冠動脈三枝病変を呈し中性脂肪蓄積心筋血管症が疑われた一例		
研修医	豊原 本奈	循環器内科	第 361 回日本内科学会九州地方会 初期研修医奨励賞 スルピリド内服を契機に QT 延長から Torsade de Pointes を来した 1 例		
研修医	西山 昌志	血管外科	第 53 回日本血管外科学会学術総会 研修医セッション 2 最優秀演題賞 精神科閉鎖病棟入院患者の腹部大動脈瘤手術成績		
学	演者	所属科	演題	学会名	
	専攻医	田中 祐希	代謝内分泌内科	甲状腺クリーゼによって可逆性両側内頸動脈狭窄が誘発されたと考えられた一例 第 25 回日本内分泌学会九州支部学術集会	
	専攻医	吉本 菜夏	代謝内分泌内科	MRI 画像で可逆性後頭葉白質脳症 (PRES) との鑑別を要した低血糖脳症の一例 第 63 回日本糖尿病学会九州地方会	
	専攻医	吉本 菜夏	代謝内分泌内科	不可逆性脳障害へ進展した低血糖脳症 第 552 回福岡市糖尿病アーバント	
	専攻医	西村 勇哉	脳血管・神経内科	抗アクアポリン 4 抗体関連器質化肺炎を併発した視神経脊髄炎スペクトラム障害の 2 例 第 349 回日本内科学会九州地方会	
専攻医	中村 瑤子	脳血管・神経内科	一過性脳虚血発作を契機に発見された左室緻密化障害の 1 例 第 350 回日本内科学会九州地方会		

	演者	所属科	演題	学会名
専攻医	久原 洋平	脳血管・神経内科	寝癖が診断の一助となった起床時発症の bow hunter 症候群の一例 第 350 回日本内科学会九州地方会	
専攻医	西村 勇哉	脳血管・神経内科	高安静脈炎患者における脳梗塞 /TIA の病型と臨床的特徴 第 51 回日本脳卒中学会	
専攻医	久原 洋平	脳血管・神経内科	Bow hunter 's syndrome : 異なる虚血症状を呈した 2 例の報告 第 51 回日本脳卒中学会	
専攻医	清水 俊吾	消化器内科 (消化管)	H.pylori 除菌 5 年後に診断された粘膜下腫瘍様の低分化型早期胃癌の一例 第 126 回日本消化器病学会九州支部例会	
専攻医	河野 寛	消化器内科 (肝胆膵)	急性膵炎を契機として診断し得た膵管狭窄を伴わない膵上皮内癌の一例 第 126 回日本消化器病学会九州支部例会	
専攻医	梅元 崇志	呼吸器内科	GAP ステージ I 以下の線維化性間質性肺疾患 (FILD) の疾患進行予測因子の解析 第 65 回日本呼吸器学会学術講演会 ポスターディスカッション	
専攻医	小野紘志郎	呼吸器内科	CBDCA+PEM+Durvalumab+Tremelimumab 療法中にサイトカイン放出症候群と CMV 感染を発症した一例 第 95 回日本呼吸器学会九州支部秋季学術講演会	
専攻医	古賀 瑛一	循環器内科	クラリスロマイシン投与後に一過性洞調律復帰を認めた長期持続性心房細動の 1 例 第 138 回日本循環器学会九州地方会	
専攻医	吉川真由美	放射線治療科	高齢者子宮頸癌に対する当院での放射線治療成績と関連因子 第 202 回日本医学放射線学会 九州地方会	
専攻医	竹中 耕平	放射線診断科	小型腎 MEST (Mixed epithelial and stromal tumor) の 1 例 第 201 回日本医学放射線学会九州地方会	
専攻医	黒木 俊輔	放射線診断科	免疫再構築症候群 (IRIS) により頸椎硬膜外腫瘍を来した播種性 MAC 症の 1 例 第 202 回日本医学放射線学会九州地方会	
専攻医	池邊 結	整形外科・リウマチ科	関節リウマチ手術において、JAK 阻害剤の休業期間はどれくらい必要か? 第 69 回日本リウマチ学会総会・学術集会 - Workshop	
専攻医	井上 光	整形外科・リウマチ科	樹枝状脂肪腫に続発した Seronegative RA の 1 例 第 54 回日本リウマチの外科学会	
専攻医	井上 光	整形外科・リウマチ科	診断に難渋した繰り返す関節水腫の 1 例 第 70 回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会 - 主題	
専攻医	木村 太一	整形外科・リウマチ科	関節リウマチ患者における人工膝関節周囲骨折の現状 第 71 回日本リウマチ学会 九州・沖縄支部学術集会 - 主題	
専攻医	山田颯一郎	泌尿器科	フルム酸ヒドラーゼ欠損性腎細胞癌の一例 日本泌尿器科学会福岡地方会第 316 回例会	
専攻医	中野 康弘	泌尿器科	当院におけるロボット支援下尿管全摘術の初期経験についての報告 第 77 回西日本泌尿器科学会総会	
専攻医	満安 正	泌尿器科	巨大腎嚢胞に対する経皮的嚢胞穿刺とエタノール注入に関する当院での症例検討 日本泌尿器科学会福岡地方会第 317 回例会	
専攻医	吉田 大樹	泌尿器科	経尿道的手術後に生じた気腫性膀胱炎の臨床的経験の 2 例 日本泌尿器科学会福岡地方会第 317 回例会	
専攻医	神川 文音	眼科	遠視化を契機に脈絡膜皺襞を認めた 1 例 第 95 回九州眼科学会	
専攻医	杉 悠太	皮膚科・アレルギー科	血管内リンパ腫に併存した黒色表皮腫の 1 例 第 124 回日本皮膚科学会総会	
専攻医	杉 悠太	皮膚科・アレルギー科	Clear cell hidradenoma の 1 例 日本皮膚科学会第 413 回福岡地方会	
専攻医	黄 相允	皮膚科・アレルギー科	関節リウマチに対してメトトレキサート内服中に紫斑を生じた 1 例 日本皮膚科学会第 414 回福岡地方会	
専攻医	酒井 雛子	皮膚科・アレルギー科	デュピルマブ投与中のアトピー性皮膚炎患者の顔面紅斑とマラセチアアレルギーの関連について 第 77 回日本皮膚科学会西部支部学術大会	
専攻医	黄 相允	皮膚科・アレルギー科	タピナロフ外用部に面皰を生じた 2 例 日本皮膚科学会第 415 回福岡地方会	
専攻医	西村 美紅	皮膚科・アレルギー科	メトトレキサートによる手足症候群が疑われた一例 第 8 回日本アレルギー学会九州・沖縄支部地方会	
専攻医	中溝めぐみ	産科・婦人科	5 か月間の勾留後に巨赤芽球性貧血を来した未受診妊婦の一例 第 172 回福岡産科婦人科学会	
専攻医	毛利 陽介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	当院において術前化学療法を施行した p 16 陽性中咽頭扁平上皮癌 16 例の検討 第 35 回日本頭頸部外科学会総会	
専攻医	毛利 陽介	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	p16 陽性中咽頭癌における Rb 免疫染色と HPV 感染の関係 第 198 回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会講演会 (第 558 回九州地方会)	
専攻医	山手 佳苗	歯科・歯科口腔外科	当科で経験した口腔粘膜癌から梅毒が判明した 2 例 第 35 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会	
専攻医	赤瀬 稜	歯科・歯科口腔外科	抜歯後出血に対して全身麻酔下で止血処置を行った 2 例 第 93 回 (公社) 日本口腔外科学会九州支部学術集会	
専攻医	長野 朋美	歯科・歯科口腔外科	Clinical study on recurrence of MRONJ patients with previous denosumab treatment after extensive surgery in our department (当科でのデノスマブによる MRONJ 症例の extensive surgery 施行後再発に関する臨床的検討) 第 70 回 (公社) 日本口腔外科学会総会・学術大会	
専攻医	山手 佳苗	歯科・歯科口腔外科	当科で経験した口腔粘膜癌から梅毒が判明した症例 第 42 回九州医療センター歯科講演会	
研修医	笹栗みのり	膠原病内科	関節リウマチとの鑑別に関節 US が有用であった痛風関節炎の一例 第 70 回日本リウマチ学会九州・沖縄支部学術集会	
研修医	井上慎太郎	免疫感染症内科	HIV 関連形質芽球性リンパ腫寛解期に発症した組織球肉腫 第 351 回日本内科学会九州地方会	
研修医	石原菜々子	脳血管・神経内科	高安静脈炎の慢性血管病変を有する再発性脳血管障害の 1 例 第 350 回日本内科学会九州地方会	
研修医	大西 慶奈	脳血管・神経内科	直接経口抗凝薬内服中に抗リン脂質抗体症候群による脳梗塞を発症した 2 例 第 51 回日本脳卒中学会	
研修医	大庭絵美里	脳血管・神経内科	低 Mg 血症を伴う Marchiafave-Bignami 病に対して早期に VitB1 と Mg を補充し、良好な転帰を得た 1 例 第 250 回日本神経学会九州地方会	
研修医	江頭由里子	消化器内科 (消化管)	出血源向定に難渋した十二指腸水平脚憩室内の Dieulafoy 潰瘍出血の一例 第 120 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	
研修医	中田 紘嘉	消化器内科 (肝胆膵)	肝細胞癌との鑑別が困難であった肝 adrenal rest tumor の 2 例 第 125 回日本消化器病学会九州支部例会	
研修医	寺崎 遥菜	呼吸器内科	難治性気胸のドレーン管理下に Mycobacterium abscessus の有菌性膿胸を合併した一例 第 96 回日本呼吸器学会九州支部春季学術講演会	
研修医	笹栗みのり	呼吸器内科	胸壁開窓術により長期自宅生活が可能となった有菌性膿胸合併小細胞肺癌の一例 第 18 回福岡県医学会総会	
研修医	大西 慶奈	循環器内科	診断に難渋したメトトレキサート関連リンパ増殖性疾患の 1 例 第 349 回日本内科学会九州地方会	
研修医	加瀬 蒼	循環器内科	感染性大動脈瘤を伴った Edwardsiella tarda 菌血症の一例 第 138 回日本循環器学会九州地方会	
研修医	豊原 本奈	循環器内科	スルピリド内服を契機に QT 延長から Torsade de Pointes を来した一例 第 351 回日本内科学会九州地方会	

学会・講演会	演者	所属科	演題 学会名
研修医	高野 桜子	循環器内科	エチニルエストラジオール内服後に急性肺塞栓症、下肢静脈血栓症を発症した1例ー ホルモン療法における下肢静脈血栓症リスクの再認識ー 第351回日本内科学会九州地方会
研修医	花村 智	循環器内科	酷暑下に発症し耐性菌感染を併発した高齢男性たこぼし心筋症の一例 第139回日本循環器学会九州地方会
研修医	田島 皓太	循環器内科	腫瘍形成を伴わない腔水症主体のEBV 関連リンパ腫の一例 第139回日本循環器学会九州地方会
研修医	川口 菜奈	循環器内科	Paradoxical Embolism and Multiple Interatrial Defects in Adult Ebstein' s Anomaly : Diagnostic and Surgical Considerations in a Rare Case 第90回日本循環器学会学術集会
研修医	井上慎太郎	小児科	養育志向が影響し、乳児期に重度の貧血に陥った低出生体重児 第301回福岡都市圏新生児ジョイントカンファレンス
研修医	中田 弘嘉	肝胆膵外科	完全内臓逆位に発症した急性胆嚢炎に対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を行なった1例 第80回日本消化器外科学会総会
研修医	中島 歩	肝胆膵外科	妊娠後期に消化管出血および十二指腸狭窄を発症した十二指腸 GIST に対して緊急手術を行った一例 第126回日本消化器病学会九州支部例会
研修医	伊福奈緒美	乳腺外科	腋窩副乳に発生した巨大線維腺腫の一例 第61回九州内分泌外科学会
研修医	廣瀬 七菜	血管外科	内臓動脈塞栓に難渋した腹部ステントグラフト内挿術の1例 第262回福岡外科集談会
研修医	水田 哲成	血管外科	腸骨動脈長区間閉塞症例2例の治療経験 第122回日本血管外科学会九州地方会
研修医	小川 雄也	血管外科	膠原病を有する足趾壊死病変に対する治療経験 第122回日本血管外科学会九州地方会
研修医	濱田 聖菜	歯科・歯科口腔外科	当科における血小板減少症患者の抜歯における臨床的検討 第35回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会

▶ 臨床試験支援センター

Kyushu Medical Center

治験にかかる費用について

臨床試験支援センター

出口 綾香

治験にかかる費用や制度はさまざまで、薬を開発している製薬企業（以下、治験依頼者）や医療機関、患者さんなどが関わっています。当院で最も多く実施している企業治験の一般的な費用についてご紹介します。

患者さんに関わる費用としては、「保険外併用療養費制度」や「負担軽減費」などがあります。

「保険外併用療養費制度」とは、通常であれば禁止されている保険診療と保険外診療との併用を一定のルールで認める制度です。この制度により、治験薬の費用や検査代などを治験依頼者が負担しますので、治験薬投与期間中は患者さんの医療費の自己負担額が軽減される場合があります。また、入院の場合は、DPC制度ではなく出来高払いと算定方法が変わりますので、通常の入院時と比べて医療費が変わる可能性があります。

「負担軽減費」とは、患者さんが治

験のために来院する際の交通費などの負担軽減を目的として支払われる費用です。治験はスケジュールどおりの検査や診察が必要なため、来院回数が増えることがあります。そのため、国立病院機構では来院や入院ごとに通常7,000円をお支払いしています。

患者さんに関わる費用以外では、治験依頼者から医療機関に治験費用が支払われ、事務費、施設管理費、研究費、治験薬管理費、人件費、治験審査委員会の費用などに充てられます。

この治験費用は、日本独自のポイント表を用いて算定し、治験依頼者と協議のうえ決定しています。しかし、近年は試験のグローバル化や複雑化により、従来のポイント表では業務量の

ベンチマーク型コスト算定の特徴 -期待できること-

- ① 治験実施計画書に規定された
実施業務ごとにベンチマークに基づく費用が設定されています。

実際の実施業務に見合ったVisitごとの費用が算出されるため、

- **複雑なデザインの試験にも対応が可能になります。**

業務量に応じた費用になる



- ② 実施業務ごとに設定された費用はサービスプロバイダーなどで集積し、
ベンチマークが**定期的に更新**されます。

- **最新の市場価格が反映**されます。

費用のバラツキが小さくなる



- ③ Visitごとの費用が算定されます。

- **Visit payment にも対応が可能です。**

(依頼者がEDCなどのシステムと連動させることで、自動的に請求書が作成・提示されるシステムが構築可能です)

請求にかかる業務量が軽減されるかも



**ベンチマーク型コスト算定を用いることにより
適正な治験費用の算定・支払いが実現できます。**

製薬協

引用：製薬協スライド「我が国における適正な治験費用の実現に向けて Fair Market Value に基づいた治験費用算定プロセス（2019年5月）」より抜粋

適切な評価・反映が難しくなっています。また、国内の医療機関ごとでも治験費用にばらつきが出ている現状です。そのため、日本も独自の算定方法ではなく、国際化に対応したコストの透明化・適正化が求められています。

日本製薬工業協会（製薬協）は、FMV（Fair Market Value）に基づくベンチマーク型コスト算定プロセスの導入を提案しています。これは国際標準に基づく適正な費用算定方法で、治験の業務内容に応じた明確なプロセスでの算定・請求を目指し

ています。当院でも2026年度にベンチマーク型コスト算定を導入することになりました。施設としても質の高い治験実施体制を整備することが収入確保にもつながると考えられます。そのため、各部門の皆さまの協力が不可欠です。

臨床試験支援センターでは、引き続き質の高い治験を効率的かつ迅速に実施できる体制の強化・整備を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和8年度 院外表彰者 のお知らせ Kyushu Medical Center	全国国立病院療養所放射線技師会 令和七年度学術賞	
	2025年11月 表彰者名 宮寄 義章（放射線部）	演題 脳血流量解析におけるREICA法の有効性
第39回 日本エイズ学会学術集会・総会 優秀演題賞		
2025年12月 表彰者名 南 留美（免疫感染症内科）	演題 中高年People Living with HIV(PLWH)における運動習慣の重要性	
第96回日本呼吸器学会九州支部春季学術講演会 一般演題 育成賞		
2026年3月 表彰者名 佐保 香苗（呼吸器内科）	演題 間質性肺疾患における抗Ro52抗体の臨床的意義	
表彰者名 古賀 悠美子（呼吸器内科）	演題 間質性肺疾患先行型の抗Ku抗体陽性原発性シェーグレン症候群の一例	
第123回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の内科学ことはじめ2026		
2026年4月 受賞名 優秀演題賞	受賞名 指導教官賞	
表彰者名 川口 栞奈（循環器内科）	表彰者名 大谷 規彰（循環器内科）	
演題 乾酪様僧帽弁輪石灰化（caseous calcification of the mitral annulus）による脳梗塞が疑われた1例		

研究助成決定 令和8（2026）年度科学研究費助成事業－科研費－	
2026年2月 受賞名 基盤研究（C）	受賞名 若手研究
表彰者名 戸次 大史（整形外科・リウマチ科）	表彰者名 山手 智志（整形外科・リウマチ科）
演題 高齢発症関節リウマチ患者のサルコペニアにおけるFoxO3の機能解析	演題 関節リウマチにおける整形外科的手術前後の薬物治療変化：医療レセプト解析

学会の お知らせ Kyushu Medical Center	JSOBCI 2027@FUKUOKA 第36回 日本乳癌画像研究会 学術総会 みんなで取り組む乳癌診療
	2027年2月13日～14日 当番世話人 松林（名本）路花（乳腺センター 副部長）
	会場 福岡国際会議場 5階 URL https://jsbci36.nksconv.com/

あとかぎ



本号よりあとかぎを担当することとなりました。現在GWの直前です。PayPayドームでは超大物グループのラストライブが開催され、医療センター周囲は多くの人で

溢れていました。8年前に同じグループがライブをした時は、よかトピア通りの渋滞が西公園下までピタリとも動かず、大変な目にあいました。立地の良さは当院の大きな魅力ですが、イベント時にはしばしば恨めしくなるのは、私だけではないのでは、と思います。

臨床研究推進部長 福士 純一

発行責任者： 臨床研究センター長 副センター長 がん臨床研究部長	甲斐哲也 福士純一 播本憲史
各研究室室長・副室長： 組織保存移植 動態画像 研究企画開発 化学療法 放射線治療開発 システム疾患生命科学推進 医療情報管理 臨床試験支援センター	高瀬 謙、櫻庭康司 野口智幸、桑城貴弘 瓜生英興、長谷川英一 有山 寛、武岡宏明 大賀才路、小川伸二 國府島庸之、渡邊哲博 杉森 宏、幸田 太 甲斐哲也、白澤宏美、永翁尚美

臨床研究企画運営部長 臨床研究推進部長 医療管理企画運営部長 病態生理 生化学免疫 情報解析 臨床腫瘍病理 先端医療技術応用 医療システムイノベーション 教育研修	甲斐哲也 福士純一 杉森 宏 村里嘉信、岡元昌樹 中山 勝、石田素子 杉森 宏、西坂賢一 桃崎征也、岩熊伸高、名本路花、藤原美奈子 古山 正、瓜生英興 溝口昌弘、徳永 聡 渡邊哲博、金子大祐
--	--



独立行政法人 国立病院機構 **九州医療センター**

〒810-8563 福岡市中央区地行浜1丁目8番1号

TEL：092-852-0700（代）
FAX：092-846-8485

九州医療センターでは研究活動・研究費に関する不正を起こさせない組織風土を形成するためにコンプライアンス教育と啓発活動を実施しています。過去の臨床研究センター便り（Research）をホームページでご覧頂けます。
<https://kyushu-mc.hosp.go.jp/about/kohoshi.html#research>

九州医療センター 臨床研究センター便り で検索